



中間貯蔵施設事業の実施状況 及び来年度の取組について

平成29年3月

環境省

輸送

○平成29年度の輸送量50万m³程度。

- ・学校等に保管されている除染土壌等を優先的に輸送。
- ・先行して学校等から仮置場に搬出済みの市町村に配慮。
- ・その他、以下を考慮し、各市町村からの搬出量を決定（焼却灰の輸送を含む）。
 - ①各市町村に均等に配分した基礎量
 - ②立地町である大熊町・双葉町等への配慮
 - ③発生量等に応じた傾斜配分（発生時期や広域処理にも配慮）

○今後の輸送量及び輸送台数を想定した上で、これらに対応した道路交通対策を、輸送量の拡大に先立って実施。

- －平成29年度の輸送量に対応した舗装厚の改良などの道路交通対策を平成28年度内に実施
- －ピーク時の輸送に向けて工事用道路の整備を含め必要な道路交通対策を順次実施

平成29年度の中間貯蔵施設事業の方針

平成28年12月9日
公表資料

用地

- 当面5年間の見通し(平成29年度末270～830ha(累計))に沿って、丁寧な説明を尽くしながら、用地取得に全力で取り組む。

施設

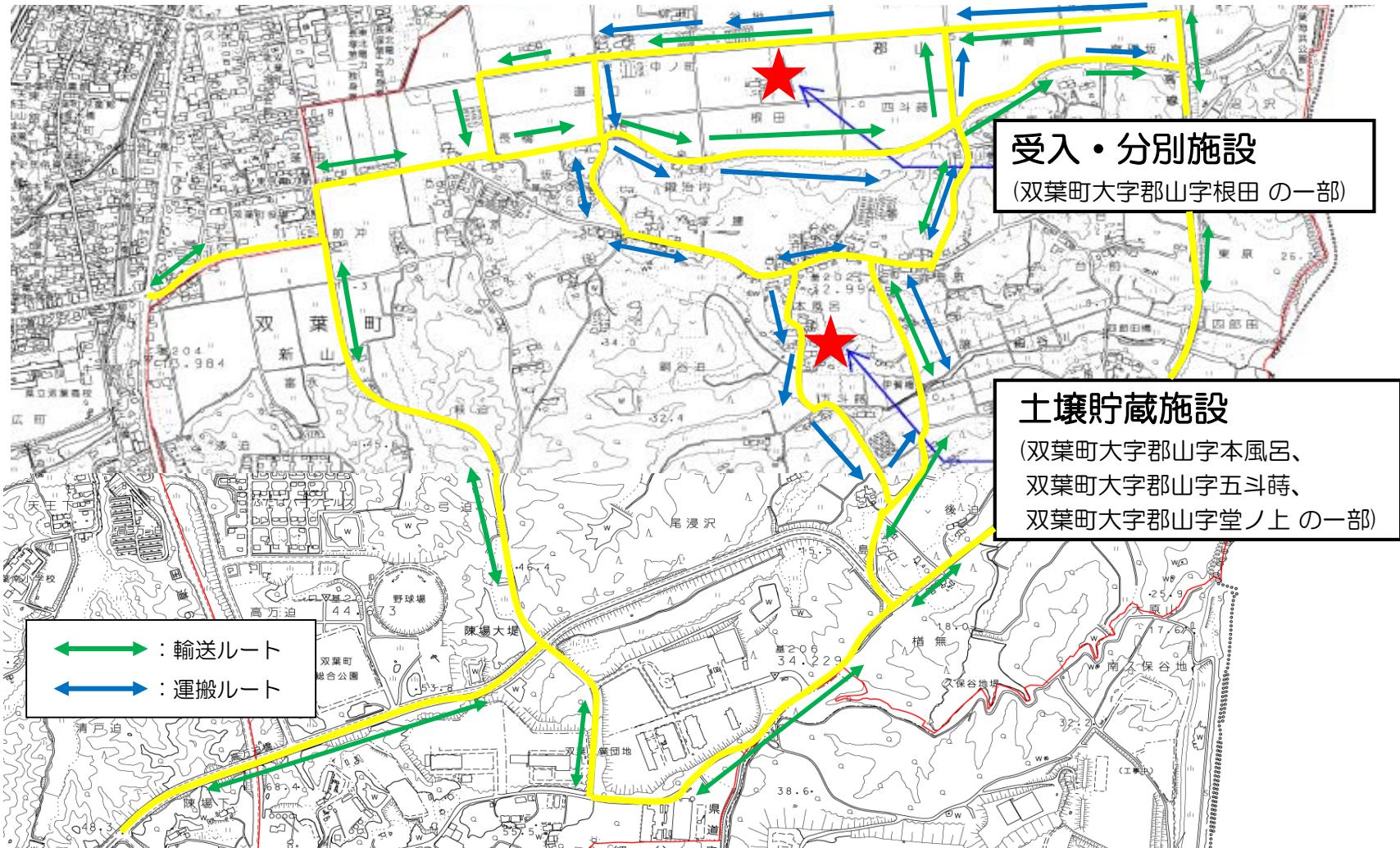
- 既に工事に着手している受入・分別施設、土壤貯蔵施設の整備を進め、平成29年秋頃を目処に貯蔵開始。
- 平成30年度の輸送量90～180万m³に対応する受入・分別施設、土壤貯蔵施設を着工。
- 平成29年冬頃の稼働を目指し、大熊町の減容化施設を整備。
併せて、平成31年度稼働を目指し、双葉町に減容化施設を着工。
- 焼却灰の輸送の開始に併せて、焼却灰保管場を確保しつつ、平成31年度の貯蔵を目指し、廃棄物貯蔵施設の整備に着手。
- 除染土壤等の継続的な搬入が可能となるよう、平成29年度の輸送量の搬入に必要な保管場の整備を実施。

大熊工区における土壤貯蔵施設等の位置(平成28年度工事)



※今後、施設の工事に伴い、多数の工事関係車両が建設予定地周辺を通行することとなるが、積載物等の飛散防止や工事関係車両の交通事故防止等の安全対策に万全を期すとともに、各種モニタリングを適切に行うことで、工事に対する安全と安心の確保に努めながら工事を行う。

双葉工区における土壤貯蔵施設等の位置(平成28年度工事)



※今後、施設の工事に伴い、多数の工事関係車両が建設予定地周辺を通行することとなるが、積載物等の飛散防止や工事関係車両の交通事故防止等の安全対策に万全を期すとともに、各種モニタリングを適切に行うことで、工事に対する安全と安心の確保に努めながら工事を行う。

大熊工区の土壤貯蔵施設等の整備状況

- 昨年11月15日に施設の工事に着手したところ。
- 受入・分別施設、土壤貯蔵施設の両方において、敷地内の造成工事を実施中。
- 受入・分別施設が完成次第、当該施設の初期運転を行うほか、今年の秋には土壤貯蔵施設への貯蔵を開始する予定。



受入・分別施設予定地における造成工事



土壤貯蔵施設予定地における造成工事

双葉工区の土壤貯蔵施設等の整備状況

- 昨年11月15日に施設の工事に着手したところ。
- 受入・分別施設においては、建屋内機器の設置工等を実施中。
- 土壤貯蔵施設においては、敷地内の伐採、造成工事等を実施中。
- 受入・分別施設が完成次第、施設の初期運転を行うほか、今年の秋には土壤貯蔵施設への貯蔵を開始する予定。



受入・分別施設予定地における工事の様子



土壤貯蔵施設予定地における伐採・造成工事

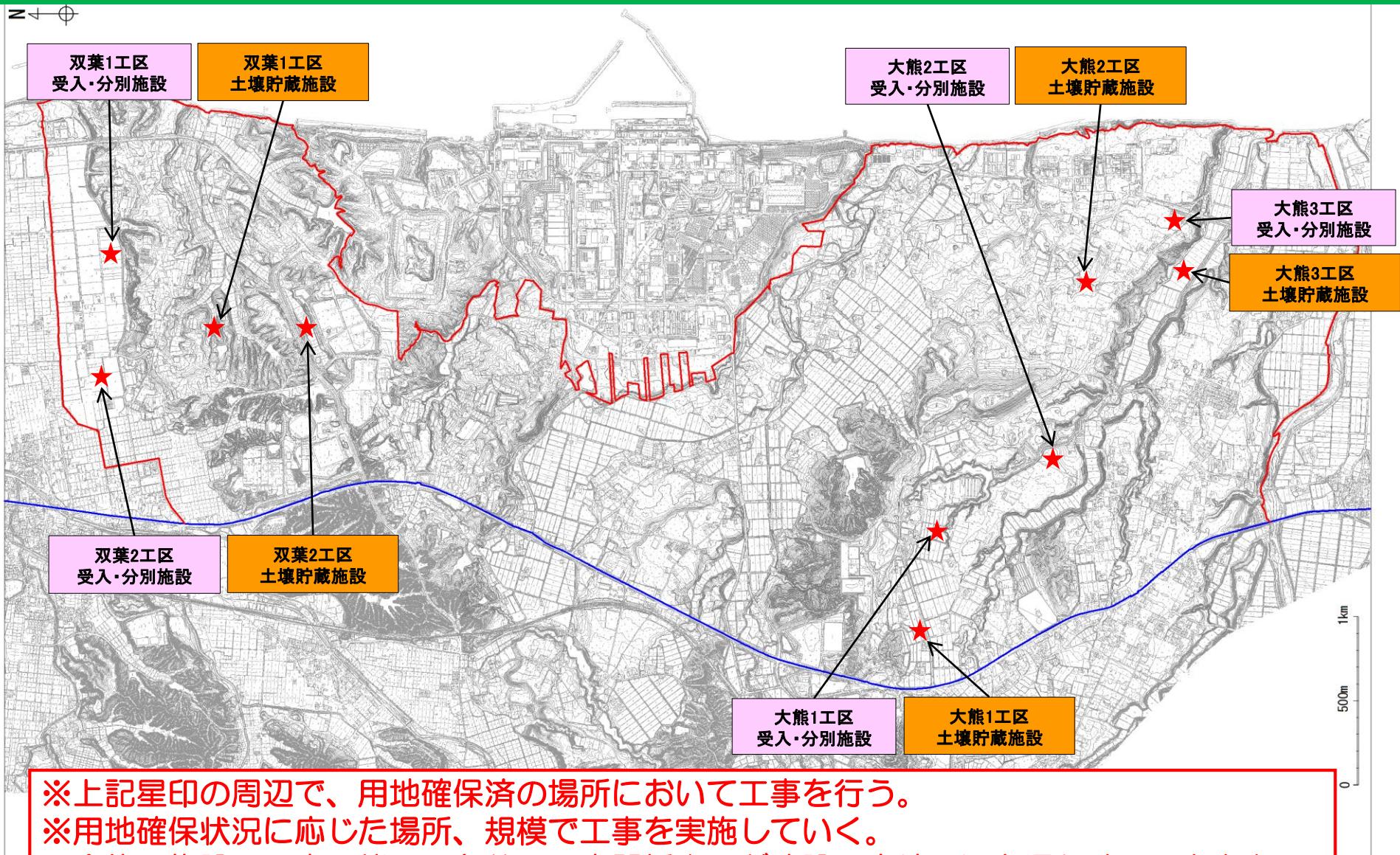
平成29年度中間貯蔵(大熊、双葉工区)土壤貯蔵施設等工事の概要

工事 件名	平成29年度中間貯蔵(大熊、双葉工区)土壤貯蔵施設等工事						
	大熊1工区	大熊2工区	双葉1工区	大熊3工区	双葉2工区		
概要	中間貯蔵施設の受入・分別施設、土壤貯蔵施設を整備するとともに、除染土壤等の仮置場からの輸送、分別処理、貯蔵施設への埋立を行う。						
	除染土壤等:主に8,000Bq/kg超			除染土壤等:8,000Bq/kg以下			
規模	受入・分別処理能力:各140t／時 除染土壤等の輸送量、貯蔵量:各737,500m ³ (※) (計3,687,500m ³)						
スケ ジュール	平成29年2月28日公告、4月21日開札			3月7日公告、4月28日開札			
	工期 : 平成29年5月頃～平成33年3月						
	契約締結(平成29年5月頃)後、準備ができ次第、確保済み用地にて着工予定。						

※ 工事規模やスケジュールは、用地確保状況や作業の進捗状況により変更となる可能性がある。

※ 貯蔵時の体積は約 55万m³となる見込み。

平成29年度中間貯蔵施設の工事予定場所



平成28年度の保管場整備箇所・搬入状況等(大熊工区)

<凡例>



大熊東工業団地保管場



今年度搬入中・搬入予定の保管場



	面積 [ha]	保管量 [m³]	利用開始時期
工業団地保管場	—	52,000	H27/3/13
保管場 1	1.2	33,000	H28/9/2
保管場 2	1.3	37,000	H28/10/7
保管場 3	1.3	0	H29/3

※いずれも3月14日時点の数字である。



平成28年度の保管場整備箇所・搬入状況等(双葉工区)

<凡例>

- 双葉工業団地保管場
- 今年度搬入中の保管場

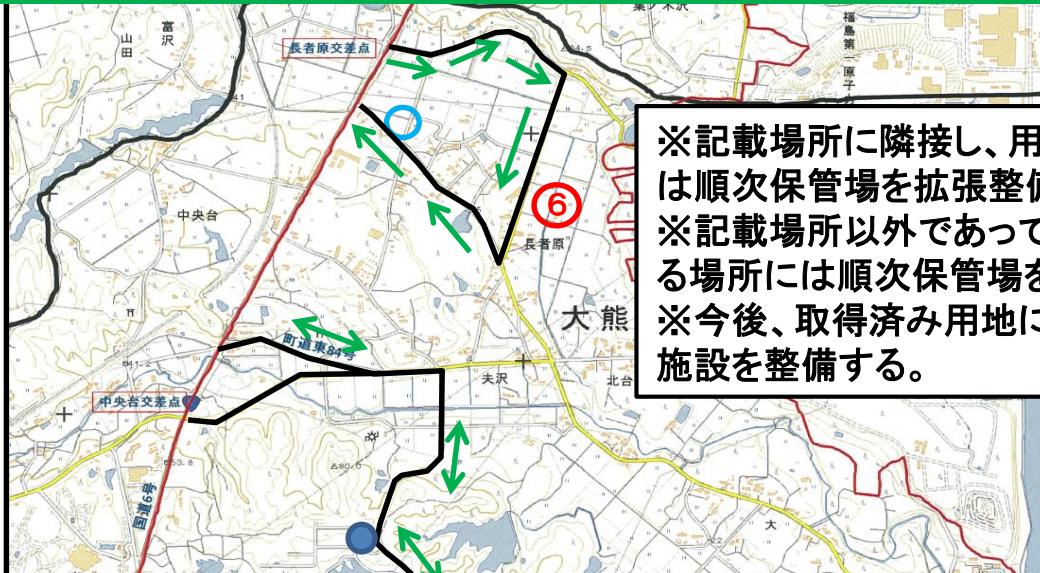


平成29年度に使用予定の保管場について(大熊工区)

(平成29年3月15日時点)

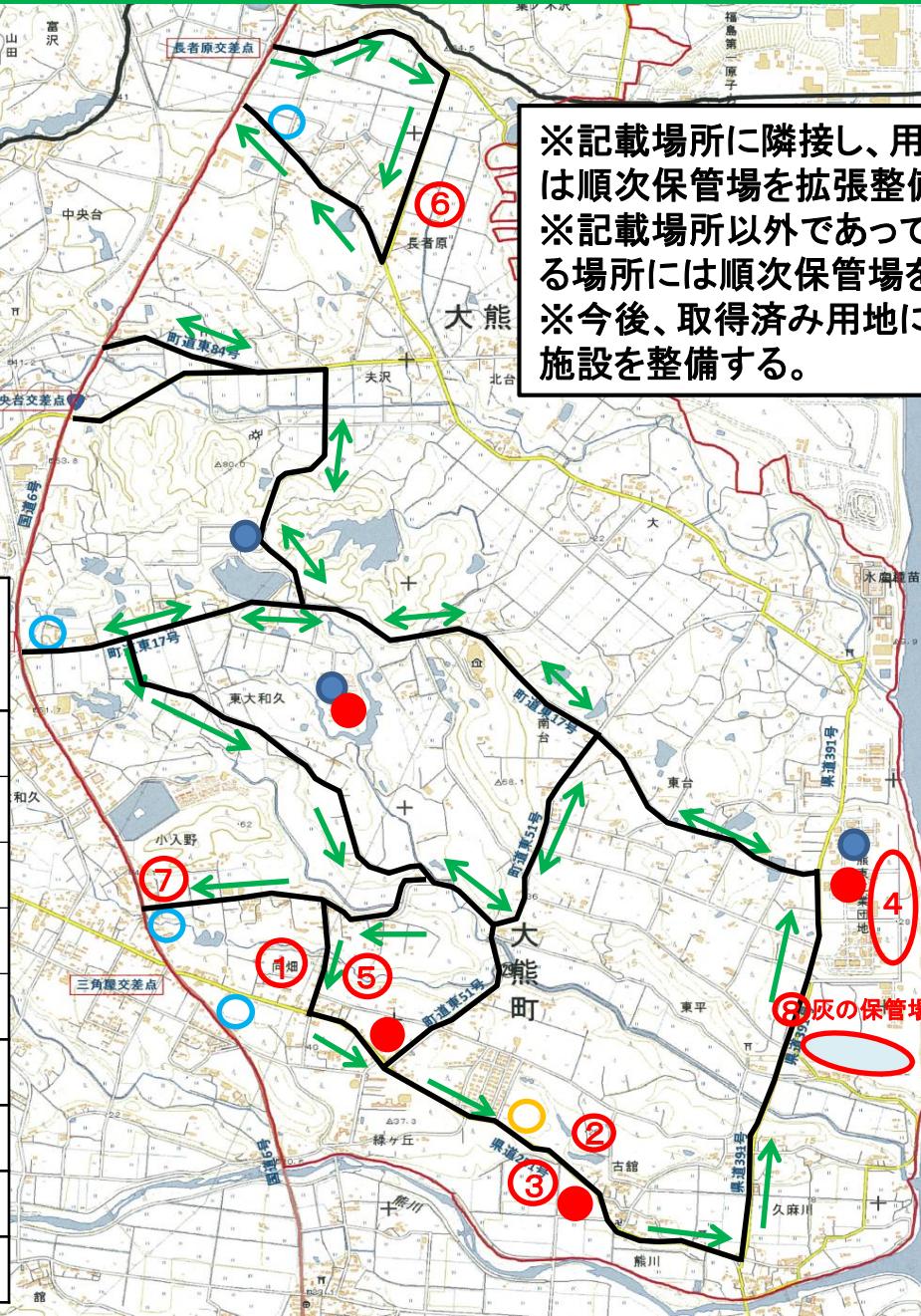
<凡例>

- 既存保管場
- 使用予定保管場
- 整備予定のスクリーニング場
- 既設スクリーニング場
- 撤去物仮置場



*記載場所に隣接し、用地取得ができた場所には順次保管場を拡張整備していく。
 *記載場所以外であっても、一定のまとまりのある場所には順次保管場を整備していく。
 *今後、取得済み用地において、スクリーニング施設を整備する。

		面積 (ha)	想定保管可能量 (m3)	合計 (m3)	利用開始時期 (メド)
保管場	既存保管場	-	50,000	305,000	4月以降
	新設保管場①	3.0	36,000		4月以降
	新設保管場②	0.5	13,000		4月以降
	新設保管場③	8.3	109,000		5月以降
	新設保管場④	1.8	43,000		7月以降
	新設保管場⑤	2.4	25,000		8月以降
	新設保管場⑥	1.3	14,000		8月以降
	新設保管場⑦	1.4	15,000		6月以降
灰の保管場	灰の保管場⑧				調整中



平成29年度に使用予定の保管場について(双葉工区)

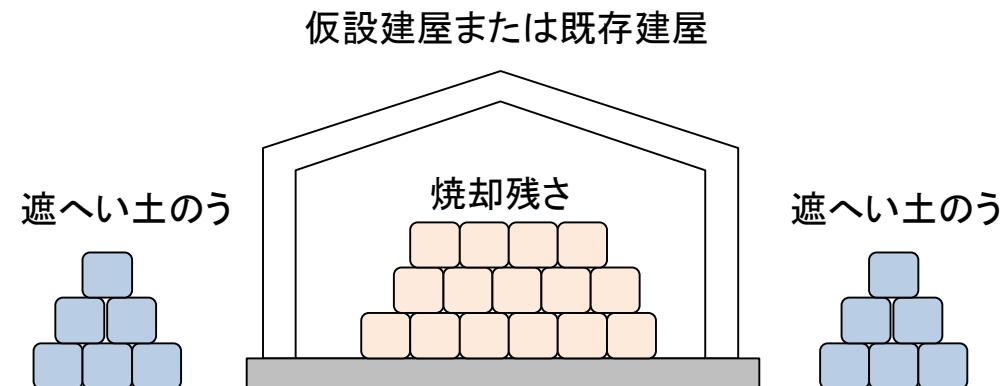


		面積	想定保管可 能量	合計	利用開始時期 (メド)
		(ha)	(m3)	(m3)	
保管場	既存保管場	-	6,000		
	新設保管場①	0.7	23,000		4月以降
	新設保管場②	0.9	27,000		4月以降
	新設保管場③	0.6	14,000		4月以降
	新設保管場④	0.6	19,000		4月以降
	新設保管場⑤	0.7	19,000		4月以降
灰の保管場		0.2	6,000	6,000	4月以降

※記載場所に隣接し、用地取得ができた場所には順次保管場を拡張整備していく。
 ※記載場所以外であっても、一定のまとまりのある場所には順次保管場を整備していく。
 ※今後、取得済み用地において、スクリーニング施設を整備する。
 ※学校輸送分は町有地へ搬入する。

灰の保管場について

灰の保管場(イメージ)



(灰の保管イメージ写真)



(仮設建屋または既存建屋)

- ・焼却残さは、フレキシブルコンテナ等の容器に封入した上で、雨水の浸入を防止する構造の保管施設において保管します。
- ・保管施設の壁面等には放射線遮へい用の遮へい土のう等を設け、床面はコンクリートで舗装し汚水が漏えいしない構造とします。

双葉工区における廃棄物減容化処理業務の概要

【対象物】

- ・双葉町等で発生した可燃性の除染廃棄物および双葉町で発生した災害廃棄物等
- ・中間貯蔵施設に搬入もしくは施設内で発生した焼却灰等

※焼却灰については熱処理を実施し、当面、焼却灰処理物は中間貯蔵施設内の再生利用を想定

【建設用地】

双葉町大字細谷字大森 地内

敷地面積 約5ha

（減容化施設をはじめとするプラント設備、減容化施設で発生した灰を保管するための保管施設、管理棟などの付帯施設を建設）

【施設の規模】

1日あたり200トン程度の廃棄物を処理
できる規模の施設を想定（24時間稼働）

【設置する施設】

- ・受入ヤード、減容化施設・排ガス処理設備
- ・仮設灰保管施設
- ・その他付帯施設（管理棟など）



業務のスケジュール

減容化処理業務の発注スケジュール(予定)

- 現在
 - ・ボーリング調査等の現地調査を実施中
- 平成29年4月以降
 - ・有識者による検討会の開催
⇒施設発注に使用する要求水準書等への反映
- 平成29年 秋頃
 - ・減容化処理業務の発注公告
- 平成29年内中
 - ・契約締結
- 平成29年度内
 - ・着工
- 平成31年度内
 - ・稼働

平成28年度の輸送について

【平成28年度の輸送】

- 平成28年4月18日より開始。
- 昨年度の検証を踏まえた改善策を講じつつ、引き続き輸送対象物の全数管理、輸送車両の運行管理、環境モニタリング等を行い、安全かつ確実な輸送を実施中。
- 段階的に輸送量を増加させていくこととし、今年度は15万m³程度の除染土壌等を輸送する予定。

【学校等からの輸送】

- 大熊町・双葉町の協力を得て町有地も活用して、保管場への学校等からの除染土壌等の搬出を行うもの。
- 地上保管されているものなど早期に搬出可能なものについて準備が整ったものから順次搬出。
- 現在は、搬出の準備が整った市町村の学校等から大熊町及び双葉町の町有地を活用した保管場、双葉町の既存の保管場への搬入を行っている。

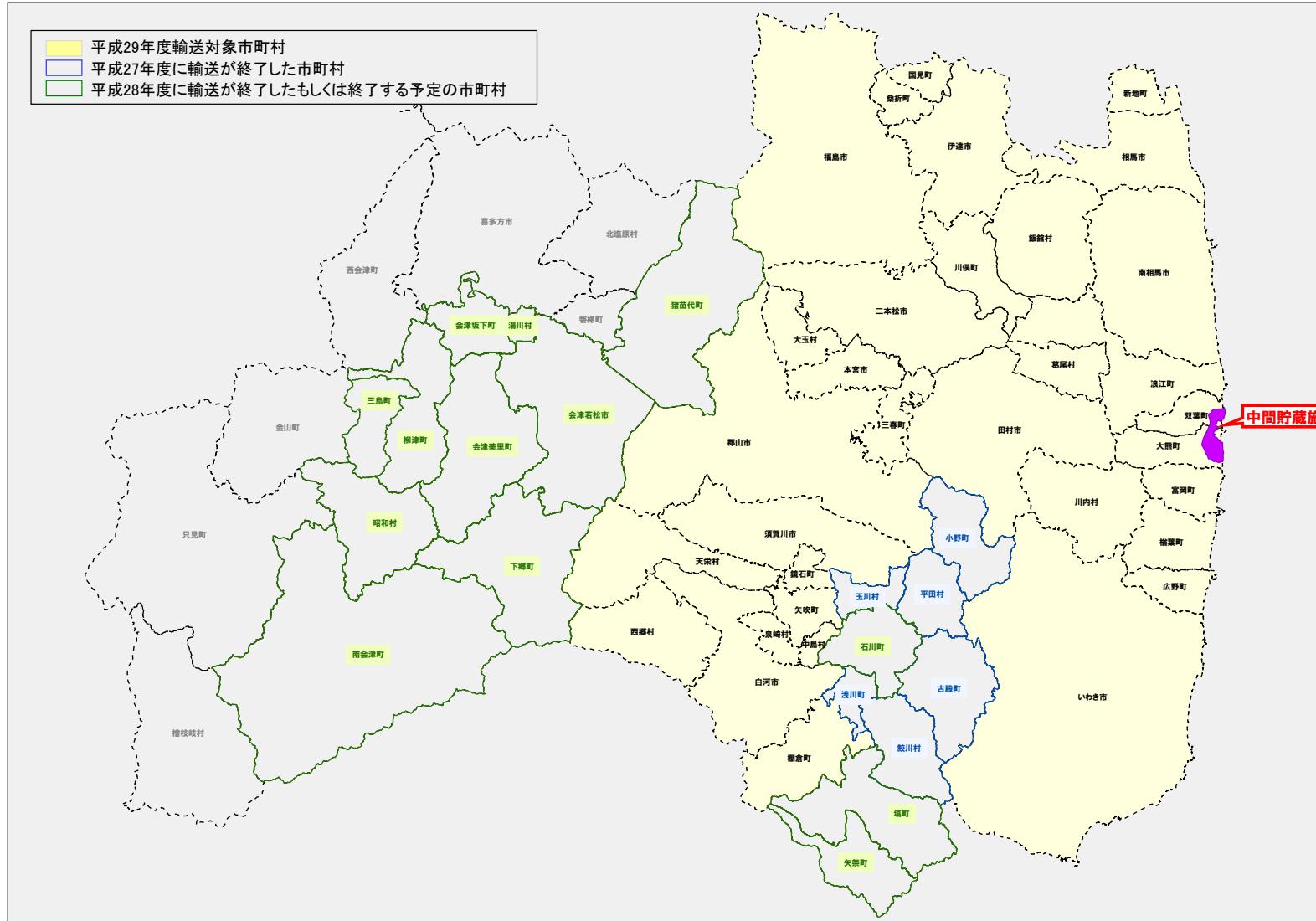
平成28年度の輸送実績（平成29年3月15日時点）

- 搬入量 計 177,528 m³
(昨年度からの累計 : 222,910 m³)
内訳：大熊工区保管場 96,162 m³
双葉工区保管場 81,366 m³

- 総輸送車両数 計29,397台
(昨年度からの累計 : 36,926台)
内訳：大熊工区保管場 15,474台
双葉工区保管場 13,923台

※輸送した大型土のう袋等 1袋の体積を 1 m³として換算した数値

中間貯蔵施設への輸送に係る搬出元市町村



<昨年度輸送が終了した市町村>
鮫川村、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、
小野町

<今年度輸送が終了する予定の市町村>
会津坂下町、湯川村、会津美里町、石川町、壇町、矢祭町、猪苗代町、三島
町、柳津町、会津若松市、下郷町、昭和村、南会津町

平成29年度の輸送の見通し(大熊工区)

地域	市町村名	搬出可能量[m ³]	学校等(現場保管)からの輸送予定量[m ³]	輸送時期の想定
浜通り (南部)	大熊町	33,000	—	・川内村、いわき市の一 部、田村市、三春町の一部、白河市 の一部、天栄村、西郷村の一部、棚倉町 の一部 ⇒輸送ルートの状況などを考慮すると、 可能な限り積雪時期を避ける必要があ るため、春から秋にかけて輸送。
	富岡町	30,000	—	
	檜葉町	18,000	—	
	川内村	9,000	—	
	広野町	6,500	—	
	いわき市	6,500	7,000	
県中	郡山市	13,500	32,500	・その他の市町村について ⇒輸送量・輸送箇所数等も踏まえ、市 町村と調整しつつ輸送。
	須賀川市	6,000	7,500	
	田村市	10,000	若干数	
	鏡石町	2,500	1,000	
	三春町	10,500	—	
県南	白河市	15,000	4,500	・その他の市町村について ⇒輸送量・輸送箇所数等も踏まえ、市 町村と調整しつつ輸送。
	天栄村	7,000	—	
	西郷村	13,500	—	
	泉崎村	6,500	—	
	中島村	5,000	—	
	矢吹町	6,000	—	
	棚倉町	4,500	2,000	
合計		20万m ³ 程度	6万m ³ 程度	

※搬出可能量は概数。実際の搬出量は、保管実態等地域の状況に応じて変更の可能性がある。

※学校等(現場保管)からの輸送については、市町村等の掘り起こし等の計画の状況に応じて変更の可能性がある。

※輸送車両は、大熊工区・双葉工区合わせて、年間平均350往復／日程度の走行を予定。

平成29年度の輸送の見通し(双葉工区)

地域	市町村名	搬出可能量[m ³]	学校等(現場保管)からの輸送予定量[m ³]	輸送時期の想定
双葉郡 (北部)	双葉町	30,000	3,500	
	浪江町	26,000	—	
	葛尾村	11,000	—	・葛尾村、福島市の一一部、二本松市の一一部。
県北	福島市	15,000	17,500	伊達市、本宮市の一一部、川俣町、大玉村の一部、飯舘村
	二本松市	8,000	7,000	
	伊達市	15,000	500	⇒輸送ルートの状況などを考慮すると、可能な限り積雪時期を避ける必要があるため、春から秋にかけて輸送。
	本宮市	5,500	1,500	
	桑折町	6,500	—	
	国見町	5,500	—	
	川俣町	13,500	1,500	
	大玉村	5,000	—	・その他の市町村
相馬	相馬市	5,000	3,000	⇒輸送量・輸送箇所数等も踏まえ、市町村と調整しつつ輸送。
	南相馬市	20,500	—	
	新地町	2,000	—	
	飯舘村	22,000	—	
合計		20万m ³ 程度	4万m ³ 程度	

※搬出可能量は概数。実際の搬出量は、保管実態等地域の状況に応じて変更の可能性がある。

※学校等(現場保管)からの輸送については、市町村等の掘り起こし等の計画の状況に応じて変更の可能性がある。

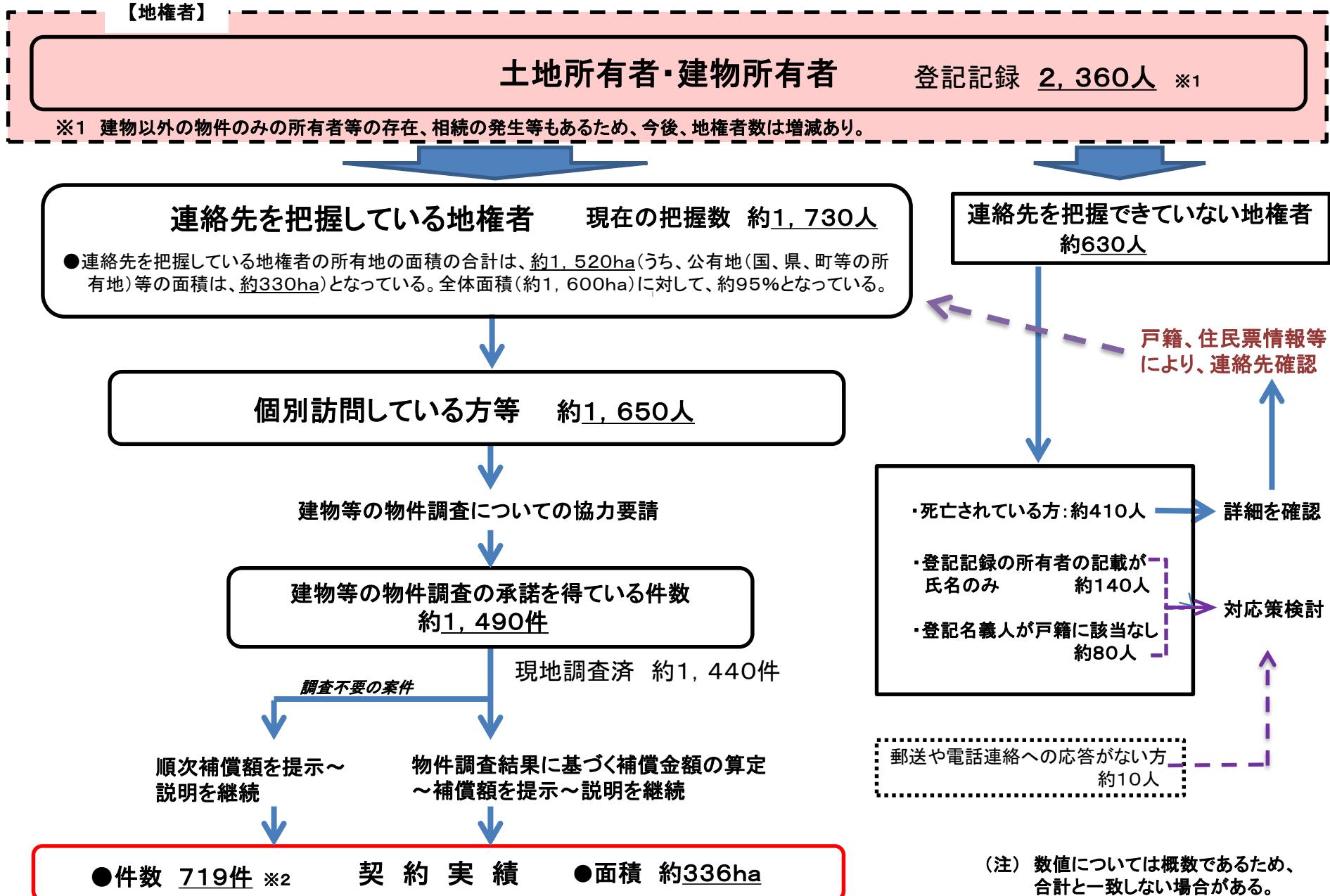
※輸送車両は、大熊工区・双葉工区合わせて、年間平均350往復／日程度の走行を予定。

中間貯蔵施設用地の状況について

(平成29年2月28日時点)

<u>全体面積</u> 約1, 600ha	項目	全体面積内訳	全体面積に 対する割合	<u>登記記録人数</u> (2,360人)内訳
<u>民有地</u> 約1, 270ha	地権者連絡先 把握済み	約1, 190ha	約74% ※1	約1, 720人
	調査確認 承諾済み	約1, 110ha	約69%	約1, 490人
	物件調査済み	約1, 070ha	約67%	約1, 430人
	契約済み	約336ha	約21. 0%	719人 (約30. 5%)※2
<u>公有地等</u> 約330ha	町有地	約165ha	約10. 3% ※1	※1 連絡先把握済み地権 者の面積は、民有地と公有 地の合計で全体の約95% となっている。
	国有地/県有地/ 無地番地の土地	約165ha	約10. 3% ※1	※2 土地・建物所有者登記 記録2,360人に対する割合。

【参考】地権者の状況について(平成29年2月28日時点)



※2 土地売買:674件、地上権設定:45件。